

台湾「布袋戲」の現状（一）

渡 邊 幸 彦

はじめに

筆者は近年台湾の「布袋戲」（ポテヒ、指人形芝居）を課題の一つとし、その演目内容の変遷と熟成を中心テーマとして研究に取り組んでいる。その内、現在に至るまで台湾において最も愛されてきた「布袋戲」の素材（「史艶文」）の背景については、既に論文「『野叟曝言』の評価－台湾布袋戲の源流－」（『同朋文学』第三十三号／2005.3）で考察を試みた。

「布袋戲」の日本での認知度は、2002年の映画『聖石傳説』の日本公開をきっかけとしてやや高まったとはいえ、「布袋戲」劇団の日本公演の機会は、日本の人形劇フェスティバルへの参加、日本の大学などとの協同研究活動などを含めても、以前に比べ飛躍的に増加したとはいえない状況にある。かつ、日本で紹介されるのは海外進出に積極的な団体に限定され、台湾における「布袋戲」劇団の活動状況をそのまま反映しているとは言い難い。台湾においても、現地での「布袋戲」人気を反映して、大学生や大学院生も含め「布袋戲」を中心に研究する研究者は数多く、論文などの研究成果はかなりの数公開されているものの、やはり個別の団体に特化してレポートするケースが目立つ印象があり、それらから現在の台湾「布袋戲」の全体像をとらえることは意外に難しい状況にある。

そこで本稿では、台湾の「布袋戲」の現状を把握することを目的として、

まず公開されている資料を基に、果たして「布袋戲」の団体が台湾中にどれだけあり、どういう規模の団体がどういった形で活動しているのかという、劇団の分布と活動状況を整理することから始めてみることにする。

1 「布袋戲」劇団の推移

1-1 「布袋戲」劇団の成立と歴史

戦後の台湾に於いて、「布袋戲」の団体数は最も盛んなときで1000団に上り、それ以外の時期でも絶えず4~500は維持してきたとされている。『臺灣布袋戲表演藝術之美』（呉明德著／学生書局／2005.7）では、様々な資料を基に年代別団体数を以下のごとく算出している⁽¹⁾。

(1) (参考)

1928年（日本統治時代、台湾総督府文教局調査）…28団体

（台南15、高雄5、台中4、新竹2、台北2／全劇団111団中）

1946年（「台湾省劇團管理規則」により劇団の登記を義務づける）

…170団体余り

1952年…甲種劇団（人）293団体、乙種（戲偶）176団体

(2) 1958年（台湾省教育庁調査）

…188団体（／台湾地区全劇団525団中）

(3) 1961年（呂訴上『臺灣電影戲劇史』より）…204団体

(4) 1976年（呂理政現地調査）

…424団体（伝統鑼鼓布袋戲班6団、赤宛然、小西園、似宛然、新西園、也是好、真西園）

(5) 1983年（『台湾省地方戲劇協進會成立卅週年紀年特刊』より）

…465団体（／全771団体中）（「五洲」107、「閣」154団体）

(6) 1985年（『中華民國74年台灣區地方戲劇比賽專輯』より）

…517団体（内、雲林79、台南67、彰化50）

(7) 1990年（江武昌現地調査）…900団体以上

台湾「布袋戲」の現状（一）

(8) 1993年（『台灣省地方戲劇協進會成立四十週年紀年特刊』より）

…392 団体（／全 635 団体中）（「五洲」82、「閣」62 団体）

(9) 1997年（台灣省地方戲劇協進會『會員通訊錄』）

…155 団体

ここから判断すると、戦後の台湾にあって、「布袋戲」劇団は当初 200 団体以内で推移していたが、70年代になって劇団数が急激に増加すると、80年代にかけて増え続け、90年ごろをピークとして今度は減少傾向に転じ、現在は（主たる団体の数としては）再び60年代のレベルにおさまっていると見ることができよう。

上記資料の内、「布袋戲」劇団が急拡大する前にあたる(3)『臺灣電影戲劇史』では当時の団体名を細かく記載しており、現在の団体の系統をたどる上で有効な資料だと思われるので、まずは次項でそれらをまとめてみることにする。

1-2 民国五十年（1961）当時の記録

『臺灣電影戲劇史』（呂訴上著／銀華出版部／1961.9）「臺灣布袋戲史」（P.411～）では、「七七事変」（1937）発生時（これ以後日本政府によって上演禁止になった）以前よりあった団体として、北部では、①宛若眞（台北市）②小西園（新莊鎮、許天扶）③錦花樓（黃添丁）④小世界（許來助）⑤新花園（王炎）⑥小花園（高文波）⑦銀上花樓（王定）⑧新興樓（邱樹）⑨新福軒（簡金塗）など、中～南部では、⑩五洲園一～五団（虎尾、黃海岱）⑪新興閣一、二（西螺、鍾任祥）⑫玉花臺（西螺）⑬五縣園（崙背）⑭高洲園（高雄）⑮寶興軒（新港）⑯復興社（東港）⑰玉泉閣（台南）⑱復興園（斗南）⑲錦華閣（麻豆）などの名を挙げており、全体で数 100 団あったとしている。

その後上演禁止措置、皇民化運動などを経て、団体は量、質ともに変化

していくが、戦後の混乱期をくぐり抜けた「布袋戲」劇団が、1951年に野外での上演（「外台戲」）が解禁になると、再び隆盛への足がかりを作っていくことになる。

同書では、「布袋戲」が黄金期を迎えつつあった1961年当時の資料に基づいて、台湾で登記されている団体として204団の名を挙げている。以下一覧にしてみる。

	団名	(団長)	(表1)					
1	亦苑然	(李天祿)	71	假成真	(劉金水)	141	乙家龍鳳閣	(黃朝和)
2	也是好	(陳財)	72	長義閣	(黃坤木)	142	新復興	(陳來福)
3	五洲園第一 ^⑩	(黃海岱)	73	錦上花樓 ^⑦	(邱煊堂)	143	新豐閣	(黃新園)
4	五洲園第三 ^⑩	(黃俊雄)	74	新虛實	(林進福)	144	新世界第二	(陳如圭)
5	新興閣第一 ^⑪	(鍾任祥)	75	小錦園	(林明堂)	145	永樂天	(張阿平)
6	西五洲	(廖錦丕)	76	哈哈笑	(王炎)	146	富五洲	(蕭極富)
7	盛五洲	(陳鼎盛)	77	錦天花	(廖舜堂)	147	進興社	(梁天橋)
8	新世界	(陳炳然)	78	新和興	(王森昆)	148	新時代	(張明套)
9	興樂園	(呂達)	79	慶樂	(謝富有)	149	國興閣	(張清國)
10	鎮五洲	(洪木川)	80	錦樂閣	(蔡文芳)	150	新快樂	(江同生)
11	喜樂班	(魏樹木)	81	小玉泉	(李清詒)	151	新宛然	(陳錫煌)
12	勝五洲	(洪生)	82	義興社	(林城)	152	新花園 ^⑤	(陳市)
13	福興園	(河瑞福)	83	同樂天	(呂西寬)	153	信五洲	(張水淀)
14	登天樓	(王文樹)	84	複安社	(黃火炎)	154	新時代第二	(曾煌)
15	新樂興	(陳金枝)	85	耆興閣	(許士勇)	155	鳳鳴社	(林鳳鳴)
16	華勝社	(蕭振裕)	86	飛蝴蝶	(劉明輝)	156	進興閣	(廖英啓)
17	新自然	(林東碧)	87	新長興	(蘆昆賢)	157	舊花興	(劉萬登)
18	長興軒	(郭陶)	88	金樂閣第四	(蘇明順)	158	龍鳳閣	(陳居) ^{※2}
19	博衆園	(蕭洪泉)	89	丁林閣	(李丁林)	159	如真園	(呂忠發)
20	新賜福	(顏百值)	90	新全樂	(陳朝岸)	160	新和樂	(蕭燦鑫)
21	明五洲	(林正明)	91	雲南閣	(吳朝)	161	虛中實	(林陳雪金)
22	勝義閣	(陳見成)	92	明興閣	(鄭大松)	162	新鳳閣	(簡坤福)
23	彰藝園	(陳木火)	93	鳳萊閣	(陳君輝)	163	文化園	(洪文選)
24	眞五洲第二	(鄭玉章)	94	震五洲	(廖木盛)	164	福龍軒	(許天來)
25	振華樓	(林溪泉)	95	龍源興	(劉添源)	165	天臺園	(謝仁宗)
26	正五洲	(呂明國)	96	新進閣	(陳堂進)	166	二崙興五洲	(楊金和)
27	新樂園第二	(吳清發)	97	新五洲	(胡新德)	167	眞金樂	(鄭來成)
28	勝貴園	(蕭水萍)	98	復興社 ^⑬	(許淵通)	168	高鳳園	(李彬)

台灣「布袋戲」の現状（一）

29	中樂社	(黃墻)	99	登興閣	(郭登崇)	169	全樂閣	(鄭來法)
30	新人形	(何朝宗)	100	順五洲	(林其村)	170	新玉泉	(梁蓮池)
31	富興閣	(黃清富)	101	五洲小桃園	(孫正明)	171	賽華興	(吳昭雲)
32	樂天閣	(徐天送)	102	純五洲	(廖炎桂)	172	響五洲	(吳本源)
33	眞洲閣※1	(曾信雄)	103	新吉福第一	(張文源)	173	新紫雪	(劉春連)
34	進添社	(張添)	104	興五洲	(沈再興)	174	隆興閣	(廖來興)
35	新文和	(洪文和)	105	正蝴蝶	(周坤榮)	175	合順閣	(洪老得)
36	小樂天	(楊昌山)	106	豐聲閣第二	(林財德)	176	雲林閣	(李竹摸)
37	新和社	(陳山亭)	107	日山軒	(蔣基山)	177	寶五洲	(何椅)
38	美玉泉	(黃順仁)	108	明香園	(程玉明)	178	興旺閣	(楊金木)
39	豐聲閣	(靈玉英)	109	喜樂	(魏通寶)	179	德興閣	(曾德性)
40	金龍園	(張金良)	110	五洲乾坤園	(楊通)	180	金洲園	(陳金龍)
41	五洲園第二⑩	(黃俊卿)	111	昭樂社	(蕭友明)	181	福興閣	(賴金枝)
42	振樂天	(王振聲)	112	同樂社	(蕭牛)	182	明安樂	(許登選)
43	永興園	(邱金墻)	113	新樂天	(許新旺)	183	振聲閣	(何文榮)
44	喜樂園	(劉重本)	114	古樂樓	(賴塗)	184	新雲閣	(黃金佐)
45	新光軒	(黃秋勝)	115	耕樂天	(王禮彬)	185	同興閣	(洪猛)
46	新麟社	(曾景霞)	116	清華閣	(胡玉琳)	186	月華閣	(徐炎生)
47	新復興	(林新定)	117	劉臺園	(劉火壁)	187	玉五洲	(陳探)
48	第一樓	(林大豐)	118	五洲榮豐園	(吳榮一)	188	金成閣	(高松雄)
49	新竹園	(陳炳煌)	119	新錦華	(胡金柱)	189	神洲園	(陳秋火)
50	祝安	(陳萬吉)	120	壽峰社	(蔡松光)	190	新乾坤	(林朝森)
51	玉泉軒	(黃添泉)	121	高峯	(陳廖秀雀)	191	祥興閣	(吳枝祥)
52	新樂園	(吳土)	122	例興園	(楊例)	192	雅樂社	(張查某)
53	寶五洲第一	(鄭一雄)	123	金龍閣	(楊金龍)	193	進興閣二	(廖英宗)
54	新國風	(謝大常)	124	永興閣	(張仁智)	194	廣興閣	(劉庚棟)
55	慶華園	(陳慶賢)	125	森林	(鄒森林)	195	新樂園	(張智高)
56	日春園	(黃坤山)	126	中民園	(白如安)	196	南陽閣	(葉忠南)
57	五洲園第五⑩	(黃魯)	127	小飛鳳	(李來祥)	197	寶玉泉	(陳來源)
58	新興閣第二⑪	(鍾任壁)	128	永樂閣	(蔡義)	198	錦鳳閣	(黃來春)
59	新國風	(廖秋輝)	129	瑞興閣	(陳深池)	199	吉興閣	(陳清吉)
60	新錦樂	(江萬長)	130	錦華樓	(吳樹全)	200	龍泉閣	(卓式楨)
61	興和樂	(游八桂)	131	眞世界	(張梓貴)	201	川樂閣	(曾茂川)
62	新西園	(許欽)	132	乾華閣	(吳文乾)	202	明世界	(苑明福)
63	小西園②	(許王)	133	喜樂社	(蔡朝玉)	203	國興閣	(吳鳳池)
64	富福閣	(洪祥瑞)	134	金樂閣	(吳清德)	204	新龍鳳	(李奇生)
65	景春園	(林祥)	135	新福軒(林阿水)	簡金塗?			
66	勵志閣	(郭艦勵)	136	協福軒	(林金渥)			

67	常興閣 (曾常)	137	鳳樂閣 (張簡鳳)	※1 高雄で最も古い団体
68	亦真奇 (陳萬連)	138	亞洲閣 (李明唐)	※2 陳婆(猫婆)(初期台湾
69	省五洲 (廖萬水)	139	技興社 (邱竹枝)	北部に於いて康泉(鬍鬚泉)
70	明虛實 (林添盛) <small>光復後新作</small>	140	錦玉社 (詹寶玉)	【金泉堂】と双壁の探演人 ゆかりの団体

これらを見ると、戦前にあった団体名をそのまま残すのは既に数団体に過ぎず、多くは戦後に生まれたか、リニューアルした団体であることがわかる。ただし、204団体の内、「五洲」を名乗る団体(洲派)が27、「興閣」を名乗る団体(閣派)が17などと、すでに系統化が進んでいることがわかる。

2 主要団体と文建會の活動

「布袋戲」の団体と一口に言ってもその規模や活動形態には大きな差がある。戦後の「布袋戲」を形作ってきた比較的大きな団体と、そのバックアップ体制について、次に考察してみる。

2-1 布袋戲の分類

「布袋戲」は、その歴史に照らし合わせつつ、音楽、演目、演出方法、人形の形態などによって様々な分類がなされてきている。

ここでは詳しい説明は省略するが、その中で伝統的な流派を最もよく表すのは音楽(伴奏)であると言え、大きくは南管音楽を使用する「南派(南管)布袋戲」、北管音楽を使用する「北派(北管)布袋戲」と広東の潮調を使用する「潮調布袋戲」に分けることができ、さらに、その後台湾で発展した「外江布袋戲(北管に京劇の鑼鼓を合わせた)」「歌仔布袋戲(歌仔戲の歌唱を取り入れた)」などを付け加えることもできるとされる。

六七

また、演目(演出劇本)の面では、大きくは「文戲」と「武戲」に、細かくは「古冊戲(演義小説の改編)」「劍俠戲(武俠小説の改編)」「金光戲(オリジナルの武俠物)」などに分類することができ、舞台の面では「外台

戯」「内台戯（劇場）」として分類することが可能である。

台湾に「布袋戯」が渡ってきて以後、傾向としては台湾北部では「南派」「文戯」に人気があり、南部では「北派」「武戯」が発展したといえるのであるが、それらは相互に影響し合い融合した部分も大いにあるため、現在行われている「布袋戯」劇団の傾向を分析するときには、そういった細かな分類法に拠るよりは、伝統的な人形と手法を用いあくまで演じ手の技術で見せることを狙った〈伝統布袋戯〉系統と、50年代以降に発展した大型の人形を用い派手な演出効果を利用した〈金光布袋戯〉系統の二種の内どちらを主として演じているかによって大別するのが最も有効であろうと思われる。

2-2 「布袋戯」界の名門

「布袋戯」界では台湾「布袋戯」の名門を示すことばがいくつかあるが、例えば「五大門派」と言った場合は次の通りである。

- ①五洲園／虎尾 黃海岱創団。弟子は「…五洲」「…洲園」を名乗る。
弟子は六世代に渡り 200 団以上存在。
第二世代には、黃俊雄、鄭一雄、黃俊卿など
- ②新興閣／西螺 鍾任祥創団。弟子は「…興閣」を名乗る。
弟子に「新興閣五虎」…鄭武雄（光興閣／嘉義）廖英啓（進興閣／西螺）黃清富（富興閣／台南）鍾義成（義興閣／西螺）鍾任壁（新興閣／西螺）有り。
- ③新世界／南投 陳俊然創団。弟子は「…世界」を名乗る。中南部。
- ④玉泉閣／關廟 黃添泉創団。弟子は「…泉閣」を名乗る。中南部。
- ⑤全樂閣／屏東 鄭全銘創団。屏東、高雄一带

また、台湾「布袋戯」界の「五大柱」といえば「一岱（黃海岱）二祥（鍾任祥）三泉（玉泉閣の仙仔師・黃添泉）四田（錦花閣／台南麻豆の田

仔師・胡金柱) 五崇(復興社/屏東東港の盧崇義)」を指し、「四大藝人」といえば1950年代以前の「一仙(黃添泉) 二崇(盧崇義) 三土員(李土員) 四全明(鄭全明)」を指すといったように、「布袋戲」界の名士をたたえることばは数多い。さらに別格の存在ともいえる李天祿氏(台北)の「亦宛然」を加え、これらの団体が間違いなく「布袋戲」の中心をなしてきたと考えてよい。

2-3 文建會の役割

台湾では現在中央政府の組織下にある「文建會」(行政院文化建設委員會)⁽²⁾によって伝統芸能を保護育成する試みが行われているが、「布袋戲」はその中でも大きな位置を占めているとあってよい。

文建會網路劇院(cyberstageTAIWAN)⁽³⁾ 伝統戯曲部門に登録済(2007.1現在)の「布袋戲」関係団体を創団時期の古いものから順に一覧表にしてみると以下ようになる。ここに名前の挙がっているものは比較的規模が大きく、著名な団体であるといつてよい。

(表2)

	地区	類別	団体名称	英語表記	創団時期
1	台北1	古典	小西園掌中劇團	The Hsiao Hsi Yuan Puppet Theater	1916/1/1
2	台北2	傳統劇目	亦宛然掌中劇團	Iwan Jan Puppet Theater	1931/1/1
3	台中1		水滸隆義閣掌中劇團	Long Ea Ger puppet show Troupe	1937/3/11
4	嘉義1		長義閣職業掌中劇團	Chang Yi Pavilion	1947/9/7
5	台北3		新興閣掌中劇團	Hsin-Hsing-Ko Puppetry Troupe	1953/1/10
6	彰化1		五洲真正園		1953/1/27
7	彰化2		明世界掌中劇團		1955/4/12
8	屏東1		明興閣掌中劇團	Ming Shing Ger Puppet-Show Troupe	1957/6/15
9	南投1		德興閣木偶劇團		1958/11/25
10	雲林1	木偶戲	隆興閣掌中劇團	Long Hsing Ger puppet show Troupe	1959/12/23
11	嘉義2		長興閣掌中藝術劇團	Chang Shing-Ge Tradipional Puqget-Drama	1960/1/3
12	彰化3	布袋戲	大台員劉祥瑞掌中劇團	Ta-tai-yuan Puppet Troupe	1960/11/26
13	高雄1		高雄順利興掌中劇團		1961/5/23
14	台中2		春秋閣掌中劇團		1965?
15	台中3	古典金光	台中聲五洲掌中劇團	Taichung Sheng-Wu-Chou Puppet Troupe	1965/1/1
16	高雄2	電視木偶	金鷹閣掌中劇團	GIN-ING-GER PUPPET TROUPE	1970/3/15
17	台中4		馨宇聲五洲掌中劇團	Pan yu sing ng chow classical puppet troupe	1974/5/15

台湾「布袋戲」の現状（一）

18	台中 5		遠東昭明樓掌中劇團		1975/ 3 /10
19	雲林 2		廖文和布袋戲團	Liao Wen-ho Puppet Show Troupe	1976/ 3 /18
20	高雄 3		五洲明正園掌中戲團		1980/ 6 /23
21	台中 6		新五洲掌中劇團		1981/ 1 /30
22	台北 4	傳統	真快樂掌中劇團	The Happy Puppetry Company	1982/ 7 / 1
23	雲林 3	傳統	昇平五洲園	Sheng Ping Troupe Company	1982/12/22
24	雲林 4	大型金光	吳萬響掌中劇團	Wu, Wan-Hsiang Puppet Theater	1982/12/31
25	嘉義 3		邱永村掌中劇團		1987/12/10
26	台北 5		西田社布袋戲劇團	SEDEN TAIWANESE PUPPET TROUPE	1990/ 8 /23
27	桃園 1		五洲桃興閣掌中劇團		1991/ 6 /24
28	彰化 4		金華龍掌中劇團		1996/12/ 1
29	嘉義 4		太保市諸羅山木偶劇團	Chu Lou Shan Puppet Theatre Troupe	1998/ 5 / 8
30	嘉義 5	掌中戲	水上萬華樓木偶劇團	Wan-Hwa House Puppet Theatrica	1998/ 5 / 8
31	台北 6	創作	河洛藝術工坊		1999/ 5 /31
32	高雄 4		元樂閣木偶劇團		1999/10/21
33	嘉義 6	掌中戲	阿儀掌中劇團	In Arab League meter palm theatrical troupe	2000/ 1 /24
34	台北 7		噍哩岸布袋戲團	ki li gan puppet show	2000/ 5 / 1
35	彰化 5	傳統現代	中五洲蕭上彥掌中藝術團		2001/ 8 /24
36	彰化 6		貝林新樂園第三掌中劇團		2002/ 2 /21
37	台北 8 新莊		阿忠布袋戲	azon Taiwanese Puppet Show	2002/ 6 / 7
38	台北 9 板橋	客家	山宛然劇團	Shan puppet theater	2002/11/ 1
39	台中 7	傳統	太平聲五洲掌中劇團	Taiping Sheng-Wu-Chou Puppet Troupe	2004/ 7 / 2
40	台南 1		清華閣周祐名掌中劇團		2005/12/12
41	彰化 7		東原五洲園		

（※類別は「網路劇院」に記載されている表現をそのまま載せる。）

この内、No. 31 河洛藝術工坊は「布袋戲」人形などの制作団体であるので、それを省くと 40 団体が登録され、北部（台北 8、桃園 1）／中部（彰化 7、台中 7、嘉義 6、雲林 4、南投 1）／南部（台南 1、高雄 4、屏東 1）という分布となっている。

戦後の台湾においては、古くは 1952 年に「台湾省地方戲劇協進會」によって第一回「台湾省地方戲劇比賽」（コンテスト）が開催され、「歌仔戲」、「台（湾）語話劇」とともに、「掌中戲」（布袋戲）の部門も設けられて、「新興閣」「新西園」「景中奇」「明虛實」「哈哈笑」「宛若真」「義樂社」「安樂社」「亦宛然」「鏡中花」の 10 団体が参加したとの記録がある⁽⁴⁾。このコンテストはその後数回行われ、それ以外にも地方政府などが中心となって「布袋戲」の優秀な団体を表彰するということが繰り返し行われてきた

渡邊幸彦

が、文建會が成立して以後は、「布袋戲」の保存と發展のために当委員會が中心的な役割を担うようになってきている。

文建會は資料の整理と保存とともに、人材育成、劇団への補助も含めた振興事業を行っているが、2001年からは前記「比賽」に代わる新たなコンテストを主催している。毎回10団体が選出され、得意な演目が一週間余りにわたって連続で上演されている。2003、05年が一年ずつ抜けているが、その年には「歌仔戲」（台湾オペラ）に関する同様のコンテストが開かれており、「布袋戲」と「歌仔戲」とが文建會が力を入れる二本の柱としてあることがわかる。

以下そのコンテストの参加団体と演目を挙げてみる⁽⁵⁾。

●外台布袋戲匯演活動（表3）

I 2001/11/2～11/11 場所：彰化（南北管音樂戲曲館）

①全世界掌中劇團	【南俠翻山虎：天劍門】	
②亦宛然掌中劇團	【大鬧水晶宮】	(表2) No. 2
③小西園掌中劇團	【悟空三關】	” 1
④大台員劉祥瑞掌中劇團	【大俠百草翁：八卦千刀樓】	” 12
⑤賜美樓掌中劇團	【楊本縣過台灣：十八盒籃】	
⑥國興閣掌中劇團	【玉筆鈴聲一生傳】	
⑦聲五洲掌中劇團	【孫贖下山：七國軍師】	” 15
⑧新興閣掌中劇團	【大戰南陽關】	” 5
⑨明興閣掌中劇團	【三國演義：長板坡救主】	” 8
⑩隆興閣掌中劇	【五爪金鷹一生傳】	” 10

II 2002/7/26～8/4 場所：宜蘭（國立傳統藝術中心・戶外劇場）

①隆興閣掌中劇團	【五爪金鷹之「蕩魔記」】	2回め
②小西園掌中劇團	【靈蛇奇緣之「水漫金山」】	2回め
③亦宛然掌中劇團	【白蛇傳】	2回め
④吳萬響掌中劇團	【假案君復國】	初(表2) No.24
⑤真快樂掌中劇團	【楊本縣過台灣：日月潭神木白茄苳】	初(表2) No.22
⑥錦龍閣掌中劇團	【三結義：文武雙狀元】	初
⑦新樂園第三團掌中劇團	【鶴驚崑崙】	初

台湾「布袋戲」の現状（一）

⑧阿忠藝合團	【金牌殺手之大車拼】	(表2) No.37
⑨廖文和掌中劇團	【萬點紅】	(表2) No.19
⑩明興閣掌中劇團	【孫悟空大鬧天宮】	2回め

Ⅲ 2004/8/20～8/29⁽⁶⁾ 場所：淡水（清水巖、活動中心）周辺

①台中聲五洲掌中劇團	【台湾伝奇人物 義侠廖添丁】	2回め
②廖文和布袋劇團	【拘仙塔風雲】	2回め
③明興閣掌中劇團	【八仙鬧東海】	3回め
④台原偶戲	【馬克・波羅】	初
⑤斗六新世界掌中劇團	【西漢演義】	初
⑥新樂園掌中劇團	【岳飛傳 岳家軍勇戰牛頭山】	(2回め)
⑦真快樂掌中劇團	【台灣民間故事 照鏡山日落梳妝】	2回め
⑧小西園掌中劇團	【魚藏劍】	3回め
⑨隆興閣掌中劇團	【五爪金鷹系列 雙珠恩仇記】	3回め
⑩亦宛然掌中劇團	【猴王首部曲 如意金箍棒】	3回め

Ⅳ 2006/7/8～7/27 場所：宜蘭（國立傳統藝術中心・曲藝館）

①亦宛然掌中劇團	【仙拼仙 拼死猴齊天】	4回め
②華洲園掌中劇團	【三國演義】	初
③小西園掌中劇團	【華光出世】	4回め
④響洲園掌中劇團	【月唐演義 五虎戰青龍】	初
⑤台中聲五洲掌中劇團	【台灣演藝製作系列 林爽文抗清】	3回め
⑥金鷹閣掌中劇團	【玉筆鈴聲之陰極皇朝前傳】	初(表2) No.16
⑦真快樂掌中劇團	【布袋戲黑色喜劇 白吃店】	3回め
⑧廖文和布袋戲團	【天下第一劍】	3回め
⑨天宏園掌中劇團	【半屏山傳奇】	初
⑩新天地掌中劇團	【濟公傳奇】	初

2006年は「傳藝夏之祭／青春布袋戲」と題して行われたイベントの中の中心行事として「匯演」が設定され、過去3回と異なり室内にて行われたため、タイトルから「外台」が外された。全国27団体の応募の中から10団体が選出されたとのことである。初選出団体のうち、華洲園（三重）、響洲園（台北）、新天地（基隆）は台北地区、金鷹閣、天宏園は高雄地区であり、近年の「布袋戲」劇団の活動傾向を反映しているようである。

3 地方の活動

台湾全土の各地方政府文化局（台北市、台北県、基隆市、桃園県、新竹県、新竹市、苗栗県、台中市、台中県、彰化県、雲林県、嘉義市、嘉義県、台南市、台南県、高雄市、高雄県、屏東県、台東県、南投県、花蓮県、宜蘭県、連江県、金門県、澎湖県）の内、「布袋戯」の盛んな県市では登記済みの団体名をホームページ上で公開している。「布袋戯」劇団が籍を置く県市としては、島を除く北の台北から南の屏東まで⁽⁷⁾ ほぼ西海岸（と内陸部）にまんべんなく見られるが、東海岸の台東でも現在3団体⁽⁸⁾ を登録団体として記録している。それら「布袋戯」劇団を単純に合計すると3~400にもなるのだが、その活動状況は地域によって大きな差があるようである。

台湾の「布袋戯」の歴史を見たときに、〈金光布袋戯〉を生みだし台湾独自の発展を築いた中南部地域と、〈伝統布袋戯〉を守ってきた北部地域とは対比して語られることが多いが、以下、中部の「布袋戯」の代表ともいえる雲林県、南部で近年「布袋戯」の普及にも力を入れる高雄県・高雄市と、北部の拠点でもある台北県・台北市を中心に台湾の「布袋戯」団体の状況を概観してみることにする。

3-1 中部（雲林）

「布袋戯」の中部の中心の一つといえば雲林県であろう。雲林は黄海岱氏の出身地であり、その教えを受けた弟子を初めとして多くの「布袋戯」団体がこの地で活動している。1999年（3/27~4/2）には国際人形劇フェスティバル（「雲林国際偶戯節」）を開催し、台湾の11団体の他、日本の2団体、インド、イタリアなど8ヶ国の19団体を招いた大規模なイベントを成功させるなど、「布袋戯の地」であるとの意識が強い⁽⁹⁾。

以下、A. 雲林縣文化局に登録されているリスト（2007.1現在）とB.

台湾「布袋戲」の現状（一）

『雲林縣布袋戲發展史／暨布袋戲宗師黃海岱傳奇』（第四章「雲林縣各地區偶戲劇團簡介」）（陳木彬著／台灣學生書局發行 2000. 1）を参考に、主要団体を一覧表にしてみる。

（表 4）（創団の古い順。●はBに掲載された団体、双方のデータが異なる場合は備考に記す。）

	団名	団長	創団	団員	備考
1	五洲園掌中劇團●	黃海岱	1918	6～8名	黃海岱創設 1931
2	眞五洲掌中劇團●	黃俊雄	1956	10～30名	五洲園第三團より改名
※	新興閣掌中劇團●	鍾任壁	1953	8～16名	成立は雲林、現在は台北を拠点 ／父（鍾任祥）の死後、新興閣掌中第二團（1953登記）から名称変更
3	金龍園掌中劇團	張金龍	1951	6名	もと信五洲掌中團
4	五洲義春園掌中劇團●	林裕民	1951	3名	※林正義 1967
5	五洲園日日新掌中劇團	陳鼎盛	1956	6名	もと建五洲掌中劇團
6	正五洲掌中劇團●	呂文復	1959	約2名	
7	隆興閣第二掌中劇團●	廖武雄	1960	10名	
8	聯合興掌中劇團●	廖伯翰	1961	3名	※廖秋夫 1963
9	新五洲第二掌中劇團	林昭南	1961	8名	
10	豐興閣掌中劇團	余玉柱	1962	8名	
11	天五洲掌中團	陳仁郎	1963	3名	
12	新金馬掌中劇團	洪振華	1963	3名	
13	五洲正興閣掌中劇團	倪金水	1964	5名	
14	五洲寶樂園掌中劇團	李明宏	1964	8名	
15	新光興掌中劇團	柳春生	1964	11名	
16	雲林閣第三團●	林錦隆	1965	6名	
17	鳴泉五洲園（樺五洲掌中劇團）	陳榮鈞	1965	6名	
18	新春五洲園掌中劇團●	林庭春	1966	8名	
19	五洲千秋園掌中團（一團）●	黃鉗	1966	8名	※許哲祥 1980 3～5名
20	五洲小寶島掌中劇團	陳麗淳	1967	3名	
21	廖嘉德掌中劇團	廖嘉德	1967	3名	
22	擇五洲掌中劇團	王勝政	1968	7名	
23	蔡文桂掌中劇團●	蔡文桂	1967	3名	もと雲林小桃園布袋戲
24	清興閣掌中劇團●	陳清根	1968	約3名	
25	宏賓第二掌中劇團●	吳萬成	1968	16名	現在 台中に拠点
26	宏賓掌中一團●	吳福訓	?	～3名	
27	成五洲掌中團	黃福文	1969	6名	
28	愛國新洲掌中劇團	吳芥明	1969	6名	五六七掌中劇團
29	新文孔掌中劇團●	許文孔	1969	6名	

渡邊幸彦

30	大中華掌中劇團●	廖大學	1969	7~8名	
31	五洲文洲園掌中劇團	李志成	1970	4名	
32	眾聲樂春閣第二●	陳豐仁	1970	約7名	
33	巧成真掌中劇團●	關文慶	1971		
34	宏賓樂興閣掌中劇團	吳富雄	1972	3名	
35	美興閣掌中劇團	歐美王	1972	2名	
36	正五洲陳藝能掌中劇團●	陳木崎	1972	3名	黃海岱に師事
37	關聖五洲園掌中劇團	廖華鎮	1973	2名	
38	黑鷹掌中劇團●	柳國明	1973	12名	
39	振興閣掌中劇團●	邱福臨	1973	12名	※吳萬子 3~5名
40	新乾坤掌中劇團●	廖家卿	1974	7名	
41	五洲小樂園掌中劇團	劉生世	1974	5名	もと雲南五洲掌中團
42	五洲遊世界掌中劇團	陳杉河	1975	7名	
43	水林真雲閣掌中劇團●	李永保	1976	約6名	
44	廖素琴掌中戲團●	廖素琴	1976	10名	もと五洲恭興園掌中劇
45	廖文和布袋戲團●	廖文和	1976	27名	黃俊雄に師事(表2) No.19
46	興五洲掌中團●	林水墻	1978	6名	黃俊卿に師事
47	明星園掌中劇團	洪一郎	1976	8名	
48	五洲千秋園掌中劇團(二團)	黃清海	1976	6名	
49	建五洲掌中劇團	沈武榮	1976	3名	
50	真雲林閣掌中劇團	李永保	1976	7名	
51	龍先閣掌中劇團	黃進祥	1977	6名	
52	日光園掌中劇團	許哲祥	1978	5名	
53	五隆園掌中劇團	李紂賢	1978	10名	台灣省戲劇協會理事
54	郭西居掌中團●	郭西居	1978	8名	
55	通天五洲園掌中劇團●	李伯東	1979	7名	
56	興隆閣掌中劇團●	黃政義	1980	約2名	
57	黑人掌中戲劇團	張曳樺	1980	8名	
58	隆興閣第三團	李應三	1980	8名	
59	紅鷹掌中劇團●	江境城	1981頃	14名	
60	新省五洲園掌中劇團●	張吉郎	1982	3名	※1978
61	慶五洲掌中劇團●	王杉郎	1982	8名	※正五洲陳藝龍?
62	天台園掌中劇團●	謝正谷	1982	5~8名	※謝忠和 1961
63	天台園第二掌中劇團				
64	隆興閣掌中劇團●	廖昭堂	1982	12名	1959 父來興劇團 80 昭堂繼承(表2) No.10
65	昇平五洲園	林宗男	1982	8~10名	(表2) No.23
66	阿奇掌中劇團	柯勝治	1982	約10名	

台湾「布袋戲」の現状（一）

67	吳萬響掌中劇團	吳福訓	1982	10名	もと宏賞掌中劇團（表2）No.24
68	長江五洲園	程得林	1982	5名	
69	福明園掌中劇團	林福忠	1982	8名	
70	福興閣掌中劇團	林通絲	1982	7名	
71	雲林閣掌中劇團	林金永	1983	7名	
72	祥藝園布袋戲團	陳永祥	1983	3名	
73	五洲日月園掌中劇團	張武宗	1985	3名	
74	正今古奇觀掌中劇團（第二團）	方賢璋	1987	8名	
75	明世界掌中劇團	楊谷樟	1987	8名	
76	金鷹掌中劇團	江境坤	1987	5名	
77	林有生掌中劇團	林有生	1988	7名	
78	嘉興五洲園布袋戲團	張新得	1988	6名	
79	李國安布袋戲團●	李國安	1988	3名	
80	祥幅園掌中戲劇團●	林登祥	1991頃	3~5名	
81	正今古奇觀掌中劇團（第一團）●	方順立	1992	6名	※方賢璋 1962
82	正今古奇觀掌中劇團（第三團）	方三保	1992	8名	
83	雲龍閣掌中劇團	吳滿足	1991	3名	
84	勝星園掌中劇團	許進福	1991	8名	
85	黃士騰木偶戲	黃士騰	1993	16名	もと五洲園第五團
86	喜樂園布袋戲團	劉清海	1995?	?	
87	雲林五洲小桃源掌中劇團	陳文哲	2001	8名	
88	文藝園布袋戲團	廖千盛	2002	12名	
89	廖千順布袋戲團	廖千順	2002	15名	
90	明星掌中劇團●	洪貴森	?	不定	
91	眾聲樂春閣掌中劇團●	陳豐仁	?	8~10名	※廖文正 2~5名
92	霹靂國際多媒體（股）公司	黃文擇	1977	120名	
93	大天宇傳播公司	黃文耀	1990	26名	

これだけの数を有する雲林の「布袋戲」劇団ではあるが、「五洲園」「眞五洲」といった最も古くから続く団体を除けば、多くが2名から5、6名程度の小規模な団体であり、廟会などの折に演じるのを主としている。ここに挙げた93団体の内、「五洲」と名乗るものが31団体（元「五洲」を名乗ったものがさらに3団体）、「興閣」を名乗るものが10団体ある。つまりはこの二つの名門がこの地域の「布袋戲」をリードしてきたといえるわけだが、「五洲園」黄一族が得意としたのは、従来よりも大型の人形を

用いた「金光戲」であった。「金光戲」はライトや火薬による派手な演出が特徴的だが、もう一つ、音楽の面でレコード（テープ）を使うようになったことが、ある意味最も大きな改革であったと言ってよいだろう。つまり伴奏に大きな楽団を必要とせず、必要最小限の人数で演じられる方法を開発したことと、この雲林における小規模な団体の多さとは無関係ではないだろう。

（表4）の最後に名前を挙げた（92）霹靂國際多媒體（股）公司与（93）大天宇傳播公司の二団体は、いわゆる「電視（テレビ）布袋戲」の制作会社である。テレビで「布袋戲」を放映したのは、1962年に台北の李天禄氏が『三国志』を台湾電視公司以て演じたものが初めてだとされるが、これはいわば伝統的なスタイルをそのまま生中継したような形であり、大型化した人形を使い本格的にテレビ向けの演目と演出を開発したのは「五洲園」黄海岱氏の子孫たちであった。黄海岱氏の息子の黄俊雄氏が1970年代に放映した『雲州大儒侠』が先鞭をつけ、80年代に孫の黄文擇（黄強華）氏が始めた「霹靂」シリーズの人気を背景として、95年に専門のテレビ局を持つに至った「電視布袋戲」は、オリジナルな演目を大型の人形と派手な演出でみせる「金光戲」のいわば発展形であるのだが、「霹靂」ものは今や「金光戲」から独立した「布袋戲」の一ジャンルとして定着したと言ってよい。「天宇」は1991年に三立電視台が始めたシリーズであるが、人形の形体などは「霹靂」シリーズとの共通性を持っているものの、「霹靂」とは異なる独自の世界観で人気を博しており、演じ手の黄文耀氏はやはり黄一族で、黄海岱氏の孫、黄強華・文擇氏の兄弟にあたる。

五
七

伝統的な「布袋戲」の枠をはみ出して、新たな演出を生み出した「金光戲」を、さらに若者の熱烈な支持を集める発展形へと高めていった雲林「布袋戲」の精神は、まさに黄海岱氏の残した大きな遺産であると言ってよい。

3-2 南部（高雄）

高雄は台湾で唯一「傀儡戲（糸線り人形）」「皮影戲（影絵）」「布袋戲」の三種の人形劇が完全な形で保存されている地域であると言われている。とりわけ現存する「皮影戲」の5団体がすべて高雄にあり、1994年に「皮影戲館」（皮影戲數位博物館／岡山）が開館したこともあって、「高雄は皮影戲の町である」との印象が強かったが、昨今、2005年に高雄市立博物館が『掌中乾坤／高雄布袋戲春秋』（高雄市立歴史博物館発行/2005.12）として高雄「布袋戲」の概要をまとめた書物を出版したり、高雄県が続けて国際的な人形劇フェスティバルを開催するなど、「布袋戲」を含めた人形劇全般に力を入れていこうという姿勢が感じられる。

実際、文化局に登録される「布袋戲」団体の数は多く、戦前から続く劇団もいくつか存在する。高雄における「四大金剛」と言った場合には、「錦五洲掌中團（蘇志榮）」「志晃掌中團（顔來旺）」「金鷹閣電視木偶團（陳錦海）」「新春玉歌劇団（葉振芳）」を指すとのことだが、以下、高雄県・高雄市文化局の登録団体を、『掌中乾坤／高雄布袋戲春秋』に記載される資料と照らし合わせながら一覧にしてみることにする。

（わかる範囲で備考に系統を示す。①～⑮までが『掌中乾坤／高雄布袋戲春秋』に掲載された団体。（業余）と記していない団体は「職業団体」。○は2001年「高雄国際偶戲大観」に参加した団体。）

(表 5)

	類別	団体名	団長	創団	備考
①	古冊刺鉄金光	國興閣木偶芸術第一團○	張清國	1956	陳萬吉（祝安）に師事
②	〃	金鷹閣掌中綜合團（高雄市）	陳錦海	1970	何東春（東興閣）などに師事（表2）No.16
③	〃	錦龍園掌中劇團○	朱翹・翹	1960	
④	〃	典寶小飛鳳掌中戲團	李金淵	1921	
⑤	〃	如真園木偶戲劇團○	陳志清	1939	洪文選（五洲文化園）に師事
⑥	〃	志晃掌中藝術團（高雄市）	顔來旺	1971	曾信雄（眞洲閣（表1）No.33）に師事
⑦	〃	天然五洲掌中戲團	張加仕	1960	黄海岱、呂明國に師事
⑧	〃	興隆閣掌中劇坊團・第二團（高雄市）	林信安	1980	曾尊慶（台南新時代）に師事

渡邊幸彦

⑨	〃	新洲閣掌中戲團	陳金全	1977	蕭極富(虎尾)に師事
⑩	〃	五洲清振閣布袋戲團(高雄市)	李振昌	1967	何高德(寶五洲)に師事
⑪	〃	雙龍園掌中劇團○	吳泳興	1991	張金六(金龍園)に師事 86 台灣省政府教育廳主辦 全省掌中戲劇比賽得到優勝獎
⑫	〃	錦五洲掌中劇團(高雄市)	蘇志榮	1979	呂明國(正五洲)に師事
⑬	〃	新耀興閣布袋戲團(高雄市)	顏志峰	1978	翁再福(再興閣)に師事
⑭	〃	小飛鳳掌中戲團・第二(高雄市)	廖乙正	1963	李來祥(小飛鳳)に師事
⑮	〃	新世界黑人掌中劇團	王清為	1970	王順發(新世界三)に師事
16		五洲明正園掌中戲團(高雄市)	吳全明		(表2) No.20
17		鳳興閣掌中戲團(高雄市)	劉天明		
18		永興閣掌中戲團(高雄市)	曾信雄		
19		鹿港福興閣掌中戲團(高雄市)	黃國號		
20	伝統	南北坊古典布袋戲團(高雄市)		1991	
21		金洲園掌中劇團	陳金龍		
22		順興閣掌中劇團	蔡明達		
23		明興閣第二掌中劇團	張祈安		
24		乾興閣掌中劇團	蔡三乾		
25		五洲東興掌中新藝團○	何東春		
26		玉寬閣掌中劇團	劉豐寬	1975?	
27		真自然掌中劇團	李俊昌		
28		乾華閣掌中劇團○	吳文乾	1937	
29		國興閣第四掌中劇團	黃文龍		
30		福興閣掌中劇團	張榮福		
31		金龍雙鳳掌中劇團	吳順田		
32		宗華掌中藝術團	謝勝宗		
33		新樂閣掌中劇團	鄭村田		
34		金真興閣掌中劇團	吳文堯	1964?	
35		梅芳掌中劇團	黃百賢		
36		金龍園第三掌中劇團	張煥章		
37		久興閣第三掌中劇團	王昆茂		
38		金興閣掌中劇團	陳坤儀		
39		雄振閣掌中劇團	簡茂夫		
40		真興閣掌中劇團	鄭進榮		
41		武興閣掌中劇團	林武雄		
42		順利興掌中劇團	余志強		平均22歲 大型(表2) No.13
43	古冊戲(金光)	新慶興掌中劇團○	湯俊民		
44		元樂閣木偶劇團○	賴清洲	1968	(表2) No.32

台湾「布袋戲」の現状（一）

45		進興閣木偶劇團○	劉天進		
46		天宏園掌中劇團	葉勢宏	1993	95 台湾省政府教育廳主辦之南區地方戲劇掌中戲比賽、「團體優等獎」
47		御龍閣掌中布袋戲團	李月英		
48		協南台掌中劇團	林信宏		
49		錦龍園吉字掌中劇團	朱志吉		
50		鳳興閣掌中劇團	劉天明		
51		童心藝術劇團	潘兆鴻		
52		阿鴻掌中劇團	方照君		
53	(業余)	金華興掌中劇團○	吳國龍		
54	(業余)	興隆閣掌中戲第三團○	林信儒		
55	(業余)	明光掌中戲團	林明春		
56	(業余)	俊龍閣掌中劇團	林勝俊		
57	(業余)	木偶崗山慶祝團	林勝祝		
58	(業余)	勝利興掌中劇團	林智謙		
59	(業余)	進財掌中劇團	楊婷婷		
60	(業余)	高雄縣正義國小兒童 傳統布袋戲團	黃泓清		

ここで注目すべきは「業余」、つまり「職業（プロ）」でない団体についてである。非職業「布袋戲」団体は台湾全体で 100 近くあるとされるが⁽⁴⁰⁾、高雄ではその活動が盛んなようである。(53) 金華興、(54) 興隆閣第三などは人形劇フェスティバルにも参加した実績があり、非職業団体だからといってレベルが低いわけではないことは明らかである。また、文化局登録団体として (60) 高雄縣正義國小が挙げられているように、学校での「布袋戲」活動も盛んに行われていることがわかる。

『掌中乾坤／高雄布袋戲春秋』などで紹介される「校園布袋戲社團」（学校でのクラブ活動）をまとめると以下のようなになる。

(表 6)

学校名	創団	人数	指導者
高雄師範大学	1988	5~10 名	陳皇寶（金鷹閣）
私立文藻外語学院 （布袋戲社）	1986	20 名	施忠賢（應用華語文系教授）・丁一郎（布袋戲店店主）
餐旅學院	1991	10~20 名	蘇志榮（錦五洲）

高雄大學	1991	10～20名	林義淵（天宇布袋戲攝影班）
高雄女中	1990	10～20名	林義淵
前鎮高中	1992	25名	林義淵
高雄高工	1988	10～20名	陳皇寶
漢民國小	1981	35～40名	蘇志榮（錦五洲）・顏來旺（志晃）
高雄高中 （布袋戲研究社）	1994		林義淵

これらのクラブは、小学校から大学まで各年代の学校にいずれも80年代後半から90年初めにかけて設置されたものであり、それぞれ蘇志榮（錦五洲）、顏來旺（志晃）、陳皇寶（金鷹閣）といった高雄の中心的な職業団体が指導に当たっているのが特徴的である。いずれのクラブも学内での活動に留まらず、積極的に学外のイベントやコンテストにも参加している。

後でも述べるが、劇団が、系列の（職業）団体を増やしていくという方法ばかりではなく、こういった（非職業の）クラブ活動に入りこむことによって「布袋戲」の底辺の拡大につなげるという方向へと転換しつつある姿をここから読みとることができよう。

3-3 北部（台北）

中南部が台湾「布袋戲」の新しいスタイルを確立していったのと対照的に、北部は伝統的な「布袋戲」のスタイルを守ろうとする傾向が強い。李天祿氏の系統を受け継ぐ「亦宛然」の他、海外での実績も豊富な「小西園」、「台湾第一女頭手」との称号を持つ江賜美氏の系統を受け継ぐ「真快樂」などの歴史ある劇団が存在するのに加え、台湾大学の3名の教授によって設立された「西田社」が伝統的な「布袋戲」の保存と普及に近年力を尽くしている。また、ハード面でも、2004年8月に台北に「台北偶戲館」がオープンし、台北の「布袋戲」にとって所縁の地である大稻埕地区に立つ「台原大稻埕偶博館」が、2005年11月に劇場も併設した「林柳新紀念偶

台湾「布袋戲」の現状（一）

戲博物館」としてリニューアルした他、雪山隧道（トンネル）の開通によって東海岸へのアクセスも改善され、宜蘭にある「國立傳統藝術中心」などが身近になるなど、「布袋戲」関係資料の収蔵と展覧、表演活動、さらには教育や学術研究に適した環境が台北で整いつつあるとあってよい。

3-3-1 新莊

台北地区で「布袋戲」の盛んな土地といえば新莊市が挙げられる。新莊は早くから開かれた商業地であり、現在も「戲館巷」の名で呼ばれる路地が残るなど伝統的な戯曲が元々盛んな土地であったが、2004年5月に「新莊市布袋戲文物館」が設置されてからは、そこを中心に、継続的に展覧、公演と、様々な世代に向けた「布袋戲」の研修を行っている。

以下『偶戲人生《新莊市布袋戲文物館啓用成果專輯》』（卿敏良総編集／新莊市公所編／2005.1）、『新莊地區布袋戲藝文資源調査／戲館巷の風華再現』（新莊市公所編／2006.2）に基づいて、新莊の「布袋戲」関係団体を一覧にしてみる。

（表7）

	類別	団名	団長	創団	備考
1	古冊・劍俠・金光	小西園掌中劇團（台北市）	許王	1913	
2		新西園掌中劇團	許正宗	1952	
3		全西園掌中劇團	洪啓文	1998	
4		賜美樓掌中劇團	柯加添	1950	江賜美女史次子
5		眞快樂掌劇團	柯加財	1971	江賜美女史長子
6		新快樂掌中戲團	柯世宏	1984	江賜美女史長孫
7		快樂掌中劇團	柯秋芬	1999	江賜美女史女兒
8		雲山閣掌中戲團	曾福山	1977	雲林廖來興（隆興閣）より
9		鄭安成掌中戲團	鄭安成	1977	
10	金光	國洲園掌中劇團	黃柄森	1991	
11	金光	政洲園掌中劇團	黃財政	1992	洲派
12	金光・北管	文興閣掌中戲團	蔡武雄	1982	閣派
13		阿忠藝合團	陳漢忠	1963	
14		西田社傳統劇場	邱豐榮	2003	

15	客家	戲偶子掌中劇團	邱豐榮	2003	新莊地区唯一の客家劇団
16		咱兜新莊布袋戲團	邱豐榮	2003	新莊地区布袋戲産業振興計画
17		雲山閣掌中綜藝第二團	黃秀娥		※台北県登記団体 HP より
18	新莊國小	小小西園掌中戲團	呉順火	1991	

「小西園」は拠点を台北市に移しているものの、江賜美の子孫の4団体(4)～(7)がこの地で活躍するほか、(13)「阿忠藝合團」は改良劇、(15)「戲偶子掌中劇團」は「客家語」劇を行うなど、新莊は様々な形態の「布袋戲」劇団が集まっている地域であるといえる。先に挙げた「新莊市布袋戲文物館」が主催するような室内で行われる公演(「内台戲」)の他、地域に残る廟などでもしばしば「布袋戲」の公演(「外台戲」)が行われている。(11)、(12)はそれぞれ雲林の「五洲」「興閣」の流れをひく団体であるが、良好な環境を求めて近年中南部から流入してくる団体も増えているとのことである。

3-3-2 「亦宛然家族」他

「亦宛然」は「小西園」と並んで伝統的なスタイルを伝承し、その普及活動にも熱心な団体である。台北に「新莊派」と「台北派」があるといわれるが、こちらはまさに「台北派」を代表する団体であるといつてよい。「亦宛然」は、積極的に海外公演を行いながら⁽¹¹⁾外国人の弟子を育てる一方で、国内においては小中学校などに指導に赴き、「布袋戲」の若い世代の人材育成に力を注いでいる。その際に、海外で旗揚げした団体や、課外活動(社団)として活動する小中学校のクラブに「宛然」の名を与えて、いわば暖簾分けをする形で責任と誇りを与えている点が注目される。とりわけ1984年から指導を始めた莒光國小(「微宛然」)のケースがモデルとなり、他の団体に学校活動へ入り込んでいくきっかけを作ったことは非常に重要である。新莊地区の(18)新莊國小「小小西園掌中戲團」は、まさに「亦宛然」のやり方にならって「小西園」許王の指導の下始められた学

台湾「布袋戲」の現状（一）

校劇団であるし、先に3-2で紹介した高雄の学校でのクラブ活動もやはり「亦宛然」の活動の影響を受けているとあってよい。学校の「布袋戲」劇団（クラブ）はいずれも80年代後半から90年代初めに設立されており、まさにこの時期は、職業劇団の数自体は減少に向かうものの、逆に布袋戲の底辺を拡大するために各劇団が新たな方策を模索し始めた時期だと考えてよい⁽¹²⁾。

以下、『人間百年巨匠／民族藝師李天祿』（国立傳統藝術中心編／2006.3）、『李天祿藝師追思專刊』（財團法人李天祿布袋戲文教基金會／1999.6）などに基づいて、「亦宛然家族」と称する関連団体をまとめてみる。

（表8）

	団体名	団長など	創団
1	亦宛然	李傳燦	1931
2	新宛然	陳錫煌（李天祿長子）	1953（-70）
3	小宛然（Theatre du Petit Miroir）	Jean-Luc Penso（仏）	1976
4	也宛然	林慧美（濠）	1980
5	己宛然	村上良子（日）	1982
6	如宛然（Galapagos Puppet Theater）	穆小珠（米）	1982
7	中宛然	文化大学	1984-（停止中）
8	微宛然	台北縣莒光國小	1985（-2002）
9	巧宛然	台北市平等國小	1988
10	少宛然	台北市格致國中	1991
11	弘宛然	教育部	1994
12	學宛然	台北縣三芝國小中	1997
13	隆宛然	台北市興隆國小	2000
14	山宛然（客家）	黃武山	2002

(13)

台北地区にはさらに「西田社」がある。「西田社布袋戲基金會」は台湾大学の陳金次、楊維哲、李鴻禧氏によって、伝統的な「布袋戲」の保護と伝承を目的に設立された団体で、「布袋戲」劇団に由来していない点に特色がある。「基金會」は1985年5月に設立されたのだが、それは「亦宛然」が学校へと入り始めたのと時期を同じくしている。「西田社」はその後、

展覧、表演活動を主催する一方で、その「亦宛然」とも協力するなどして「布袋戲」の教育研修に力を注いでいく。さらに1989年には「西田社布袋戲劇團」を設立し、2002年には新莊に「西田社傳統劇場」という常設の劇場をも作り、自らの布袋戲劇團の公演の他、学校や民間の劇団の活動にも役立てている。「西田社」は、教材や劇本、独自調査に基づいた資料集などの出版物も数多く出しており、〈伝統布袋戲〉の理論と実践両面に現在最も大きな役割を果たしている団体であるといつてよいだろう⁽¹⁴⁾。

台北市内にはその他、店舗内に「布袋戲」の舞台を設けて週末には公演も行うレストラン（「叙舊茶飯劇場」）のような施設もあり、若い演じ手にとってはトレーニングの場ともなっているのであるが、ここで演じられるのは主に「電視（テレビ）布袋戲」系統の〈金光布袋戲〉である。近年の台湾の「布袋戲」ブームを作ったのは間違いなく〈金光布袋戲〉（とりわけ霹靂系統）であるのだが、台北地区にあってはそればかりでなく、そこへとつながる〈伝統布袋戲〉の保護と伝承に力を入れ、確実に成果を残しつつあるといつてよい⁽¹⁵⁾。

以上、現在の台湾における「布袋戲」劇団の分布状況とその地域の特徴について概観してみた。紙面の関係で、各劇団の演目や演出方法についての細かな分析などは次稿に譲りたいと思う。

注

- (1) 『臺灣布袋戲表演藝術之美』第三章、第一節（P. 49～58）及び附録：台湾布袋戲大事記（P. 633～761）などによる。
- (2) 1981年11月に成立。
- (3) URLは、<http://www.cyberstage.com.tw/index.asp>
- (4) 『臺灣布袋戲表演藝術之美』（同上）附録：台湾布袋戲大事記（P. 657）参照。
- (5) 『臺灣布袋戲表演藝術之美』（同上）、『2001 臺灣外台布袋戲風雲錄（DVD）』（行政院文化建設委員会（柯基良）発行／2002. 1. 10）、國立傳統藝術中心 HP、

台湾「布袋戲」の現状（一）

外台布袋戲匯演活動 HP などを参考とする。

- (6) Ⅲ回目は「英雄出少年」（青少年コンテスト）も開催された。参加者は以下の通り。
- 1 陳宇期（隆義閣掌中劇團）2 洪啓文（全西園掌中劇團）3 蘇俊英（明興閣掌中劇團）
 - 4 李京曄（真雲林閣掌中劇團）5 胡振惠（永五洲掌中劇團）6 葉勢宏（天宏園掌中劇團）
 - 7 李南震（金台湾掌中劇團）8 陳智強（陳燕楨掌中劇團）9 楊燈財（金華龍掌中劇團）
 - 10 林政興（昇平五洲園）11 柯世宏（真快樂掌中劇團）12 陳昭安（新五洲掌中第二劇團）
 - 13 張正隆（桃興閣掌中劇團）14 廖千順（廖千順布袋戲團）15 黃明隆（西田社傳統劇場）
 - 16 王英峻（台中暨五洲掌中劇團）17 陳漢忠（阿忠藝合團）
- (7) 登録団体の多い地域としては他に嘉義（県市併せて 22 団体）、台中（県市併せて 38 団体）、台南県（63 団体）、屏東県（36 団体）などがある。
- (8) 「五洲新富觀掌中綜藝團（張恭銘）」「小乾坤掌中劇團（張文松）」「藝峰掌中劇團」の 3 団体が登録されているが、いずれも「業余」団体である。
- (9) 1999 年のフェスティバルについては、『子どもの文化』（1999 年 6 月号／第 31 巻 7 号）に、安里和子「国際人形劇フェスティバル雲林国際偶戲節 夢広がる人形劇の世界」として参加レポートがある。雲林では他にも、2004 年の「雲林国際偶戲節」の開催などの実績がある。
- (10) 『臺灣布袋戲表演藝術之美』（同上）P. 19、注(5)では、呉正徳氏の「非職業布袋戲社團調査研究計劃」成果発表資料（2002/1/2）で「調査した 95 団体（学校或いは民間機構）の内正常に活動していた団体は 63 団体であった。」との記載があることを紹介している。
- (11) 筆者の住む名古屋地区でも、「亦宛然」は 2004 年 8 月に公演を行ったのに続き、2007 年にも公演が予定されている。
- (12) 筆者は 2006 年の夏に台北縣三芝にある「李天祿博物館」（「亦宛然」の事務所に併設される）を訪問したが、ちょうどそこにある劇場で小学生が練習している様子をテレビ局（大愛電視台）が取材している場面に立ち会う機会を得た。団長他「亦宛然」の方々の見守る中、大人顔負けの堂々としたせりふ回しと人形遣いを見せる小学生の姿に感心させられたものだが、小学生とはいえ日頃のトレーニングがいかに本格的に行われているかが想像できた。
- (13) 「弘宛然」は政府教育部内に設けられた「亦宛然」の分家であるが、2006 年公開の台湾映画『深海（Blue Cha-Cha）』にも参加してラストの印象的な場面を彩っている。
- (14) 近年の日本での活動としては、山口大学大学院東アジア研究科などが主催した国際シンポジウム「東アジア伝統人形劇の継承と発展」（2004. 11. 13）に参加し、公演も行っている。『山口大學文學會志』第五十五巻（2005. 3. 13）「国際シンポ

渡 邊 幸 彦

ジウム「東アジア伝統人形劇の継承と発展」特集」にその報告と、『水鬼作城隍』の脚本とを載せる。

- (15) 台北県の登録団体としては本文に挙げた団体の他、永和市の「新虚實掌中劇團（林進福）」「真虚實掌中劇團（林億志）」「明虚實掌中劇團（林悅章）」、鶯歌鎮の「小樂天掌中劇團（郭陳松）」、板橋市の「台北正五洲掌中劇團（陳信義）」、樹林市の「明五洲掌中劇團（江進興）」、三重市の「幸運草偶劇團（陳志蘭）」がある。